東京都新宿区発「聖母病院」

すべての人が幸せになるために、ボーダーレスな世界をめざして

文＝大谷真奈美　写真＝井伊杏

ルルドのマリア像前
左から、荒木さん、竹淵さん、シスター塩塚、病院長の市瀬さん、杉茂さん。
聖母病院の理念は「愛を持って病める人を癒されたキリストにならい、国籍、信仰、貧富を問わず、心の通う医療を提供して病める人々の身体的、精神的、社会的、霊的ニーズをみたす」。時代が変化するなかにあって、一貫してすべての人々に平等に愛の精神で医療を提供してきた。

社会福祉法人聖母会 聖母病院は今から80年前に、ローマカトリックの精神の下、貧しく苦しんでいる人々の救済を目的に創立された。子どもからお年寄りまであらゆる世代が集い、年間で1800人もの新しい命が誕生する病院としても知られている。そこでオイラは、シスターからあらためて命の大切さと支え合う心を教えてもらったんだ。

震災で再認識した相手を思いやる気持ち

前回、被災地である宮城県大指（おおさし）のおかあさんたちから預かった手作りのクリスマスオーナメントを手に、オイラは東京の聖母病院に向かった。

今年4月にマリアの宣教者フランシスコ修道会から聖母病院に派遣された副院長でシスターの塩塚俊子さんは、かねてよりオイラの大の仲良しだ。震災直後はシスターたちの元に、たくさんの国のシスターからお見舞いのたよりが届いたらしい。

「印象深いのは、大人が食事を子どもに譲るなどのニュース映像から日本人の素晴らしさに感激したという声が多くあったこと。自分よりも相手を思いやる気持ち、それこそを日本人は誇りをもって次の世代に大切に伝えられたらいいですね」とシスター。「大切なことはボーダーレス……。自分自身のなかで、人と人との交わりのなかで、そして社会、国々の間で、私たちはボーダー（境界）を作りすぎているのでは？ボーダーをなくして世界が一つになった時に、だれもが幸せになれるのです。クロッチちゃん、あなたが目指すところと同じでしょ？」。

えっ！　どういうこと？　いきなり頭が混乱したオイラに、シスターはあらためて話し始めた。

「キリストがもたらす『福音』とは『良き訪れ』。つまり、創られたすべてのものが幸せになること」と語る、副院長のシスター塩塚。

「ボーダーレス」が世界を変えるキーワード

「クロッチちゃん、神様が私たちに望むことは一つだけ、モノやお金だけでなく本当の意味で、皆がいただいた生命を大切にして幸せになること。残念ながら、世界では戦争、食糧問題、震災後の原発問題など、私たち大人が引き起こしたことによって、つねに子供たちや弱者が犠牲となっています。問題の要因は人と人との間にボーダーを作り続けているからではないかしら。食糧問題も、神様は全人類が困らないだけの食物を充分準備してくださっているのに、20パーセントの富んだ国が独占している。あとの80パーセントが貧しさに苦しんでいるのです。皆が分かちあえば解決することなのに」

聖母病院

本当だ、世界の問題って、ボーダーレスが解決のキーワードなんだね、シスター!?

「そう思います。理想論と言われても私は、気づいた人から、まず自分が変わることで、次世代のために世界を変える突破口が開かれると思っていますよ」

すべてを失って見えてくること

病院内でもボーダーレスが必要なのかな？　シスターに聞いてみた。

「もちろんですよ。今の医療は診療科目も細分化されすぎていますね。病を診るというけれど、本当は『病を持った人を診る』のが医療でしょう。重要なのは、一人ではなく一つになること。人の力は、たとえば3人が分裂すると全部合わせても3以下ですが、力を合わせればそれは4にも5にもなります」

シスター塩塚は医療の現場で知ったある真理についても語ってくれた。「限られた命を宣告された患者さんにとって、心身の苦しみとの闘いは壮絶です。そのため、聖母病院ではパストラルケアという心のケアにも取り組んでいます。私たちは患者さんに寄り添い、ともに歩くことしかできません。そこで皆さんから私たちが教わったのは、悲しみや苦しみを体験された方だけが到達できる本当の喜びや希望があるということです」。さらにシスターは続ける。

「津波ですべてを失った方々が、食べ物を分け合い、他の被災者を思いやる気持ちと同じです。人は『持ちすぎて』いると、他の人を思いやることが難しくなります。キリストが命を捧げて無になった時のように、人はすべてを手放した時に愛の大切さや、人と人とのつながりを感じることができるのでしょう。そのことを、私は患者さんや被災地の方々から教えていただいています」

最後にシスター塩塚はこう話した。「医療の現場でも地域連携が少しずつ形になっています。被災地でも頑張っている皆さんが確かにいる。旧約聖書の言葉に『一つの切り株から若い芽が出る』という一節があります。すべてを失ったかに見えても、確かに新しい生命が生まれているのです。世界を変える新しい動きは確実に始まっています。クロッチちゃん、あなたはのら猫だからどこにでも行ける。一緒にボーダーレスな社会を創っていきましょうね」。

シスター、オイラ、これからも頑張るよ！

シスター塩塚とシスターバーバラ（右）。

たくさんの方に被災地のことを忘れないでいてもらうために、聖母病院のご厚意で「東北グランマのクリスマスオーナメント」を病院内バザーで販売したよ！

シスター武田とクロッチ。

◆社会福祉法人聖母会　聖母病院
〒161-8521 東京都新宿区中落合 2-5-1
tel. 03-3951-1111　http://www.seibokai.or.jp/

「東北グランマのクリスマスオーナメント」についてはコチラ
http://www.grandmaproject.jp/